

平成 28 年度 南区社会福祉協議会事業計画

平成 28 年度は、区社会福祉協議会をはじめ、区役所、地域ケア施設、そして地域や福祉関係団体等が 5 年後の将来像を思い描きながら策定した第 3 期南区地域福祉保健計画（以下「第 3 期計画」）が始まります。

第 3 期計画では「区民の情（こころ）が生きるまち南区」という基本理念を継承し、第 2 期計画までの取組を継続すると共に、4 つの重点目標を設定し、誰もが安心して自分らしく暮らせる地域社会の実現に向けて、地区社協はじめ自治会町内会、民児協など地域の団体、住民と共に、地域の中で住民同士がつながり支えあいの関係が築けるよう取り組んでいきます。

また、4 月からは介護保険制度の改正により、生活支援体制整備事業が介護予防・日常生活支援総合事業と連動してスタートします。この事業は福祉・医療・介護などの連携により、支えあいの地域づくりを包括的に進めていく取組であります。既に重点事業として取り組んでいる「身近な地域のつながり・支えあい活動推進事業」に通じるものであり、引き続き積極的に取り組んでいきます。

こうした地域支援の取組を大きく前進させると共に、社会福祉協議会の事業として取り組んできたあんしんセンター（日常生活自立支援事業）、生活福祉資金貸付、移動情報センターなど市民が暮らしている地域で生活が続けられるために必要な支援を、引き続き着実に推進していきます。

<重点目標と主な取り組み内容>

1 日ごろから声を掛け合い、つながり・支えあいの関係をつくろう

様々な生活課題を抱える人や支援が必要な人が地域から孤立しない仕組みづくりを地域住民や関係機関と共に進めます。

2 誰もが活躍できる機会と身近な参加の場をつくろう

地域福祉団体や地域ケアプラザと協働して、新たな担い手を育成するため、地域住民やアクティブシニアを対象としたボランティア講座や活動紹介を行い、活動への参加を促します。

3 日常の情報共有を進め、災害時にも安心できる備えをしよう

地区社協広報紙の充実を支援すると共に、災害ボランティアネットワークの活動周知と会員拡大に取り組めます。

4 身近な活動を通して健康づくりを進めよう

地域の高齢サロン等で健康づくりを目的とした活動を取り込めるように支援します。

南区地域福祉保健計画関連 平成28年度 南区社会福祉協議会 主要取組項目

重点 目標1	日ごろから声を掛け合い、つながり・支えあいの関係をつくろう		重点
〈南区地域福祉保健計画・南区地域福祉活動計画の推進〉			○
具 体 的 取 組	◆	地区社協、区役所や地域ケアプラザ等と協働して、第3期南区地域福祉保健計画を推進します。	
	◆	地区社協の年次事業計画策定のための会議や振返り会議等に職員が参加し、第3期地区別計画の推進を支援します。	
〈地区社協支援〉			
(5年後の将来像) 地域の中で見守りしあえる関係ができ、孤立する地域住民が少なくなっている。			
具 体 的 取 組	◆	認知症の理解を促進するため、地域や学校等における認知症理解講座(認知症サポーター養成講座等)の開催を地域や関係機関と共に支援します。	
	◆	認知症理解講座(認知症サポーター養成講座等)の受講者を地域の見守り活動につなげられるように支援します。	
	◆	高齢者や障害者の孤立防止のため、地域ケアプラザや地域活動ホーム等の関係機関と連携しながら、地域の見守り体制づくりを支援します。	○
	◆	「地域支えあいネットワーク」の展開及び活性化を支援します。	
〈身近な地域のつながり・支えあい活動の推進〉			
(5年後の将来像) 支援が必要な人を地域で見守り、孤立する事がない体制が、どこの地域でもできている。			
具 体 的 取 組	◆	区民一人ひとりが抱える生活課題の解決に向けて地域住民や関係機関と共に取り組みます。	
	◆	様々な生活課題を抱える人や支援が必要な人が地域から孤立しない仕組みづくりを地域住民や関係機関と共に進めます。	○
〈ボランティアセンターによる活動支援〉			
(5年後の将来像) 身近な地域で活動するボランティアが増え、ボランティアのつながりや地域の支えあいの関係もできている。			
具 体 的 取 組	◆	ボランティアセンターと各地域ケアプラザとの共催によるボランティア講座を実施し、気軽に参加できる地域ごとの「ちょこっとボランティア」活動を広げます。	
	◆	ニーズに応えられるようボランティア情報の共有を各地域ケアプラザとの間で進めます。	
	◆	ボランティアセンター、地域ケアプラザ、ボランティア連絡会が協働して、多様化するニーズに対応できる仕組みづくりに取り組みます。	
	◆	ボランティアが集うイベント(「ボランタリーフェスタ」等)に多くの団体が参加するよう働きかけ、ネットワークを広げます。	
	◆	ボランティア団体のつながりを深め、幅広いニーズに応えられるよう交流会の開催やボランティア連絡会への加入を働きかけます。	
	◆	公共交通機関の利用が困難な高齢者や障がい者などを対象にした送迎サービスを継続して実施します。	

〈 福祉教育支援 〉		
(5年後の将来像) 学校での福祉教育についてボランティアと学校との意見交換が進んでいる。		
具体的 取組	◆ 学校での福祉教育について、協力者であるボランティアの意見も取り入れた「福祉教育」プログラムを提案します。	
	◆ 地域ケアプラザや地区社協等とも連携したプログラムを検討します。	
	◆ Kokua（コクア）による疑似体験型プログラムの実施に協力します。	
〈 災害救援ボランティアネットワーク活動の強化 〉		
(5年後の将来像) ボランティアや関係機関同士、顔の見える関係を築いている。		
具体的 取組	◆ 定例会や定期的なシミュレーション訓練を通じて、災害ボランティア同士のつながりが深まるよう支援します。	
	◆ 災害救援ボランティアネットワークと関係機関が相互の役割を理解し合い、円滑な関係を築いていけるよう支援します。	
〈 障がい児者支援 〉		
(5年後の将来像) 商店や地域住民等と障がい児者やその家族が、互いに理解を深め、交流が盛んに行われている。		
具体的 取組	◆ 地区社協や学校、企業等と協力し、「おみせサンタ」事業等の障害児者と地域がつながるイベントを実施します。	
	◆ 親の会や障がい児者団体が行う疑似体験や「セーフティネットプロジェクト横浜」の出前講座等の取り組みを支援し、障がい理解の啓発活動に取り組みます。	
〈 障がい児者の移動支援 〉 【移動情報センター】		
(5年後の将来像) 付き添い活動を通して、地域の中で障がい児者とその家族の見守り、支えあいの関係が築けている。		
具体的 取組	◆ 障がい児者への理解を促進するため、地域で障がい理解講座を実施するとともに、付き添いボランティア活動につなぐ支援をします。	
	◆ 移動支援にとどまらず、生活全般にかかわる多様な生活ニーズの把握に努め、関係機関に適切につなげることにより、課題解決に努めます。	
	◆ ヘルパー事業所等との顔の見える関係づくりを行うとともに、事業所連絡会を通して事業所同士のネットワークづくりを行います。	
〈 福祉保健活動拠点による支援 〉		
(5年後の将来像) 行事や講座等を通じて周辺の施設や地域住民との交流が深まっている。		
具体的 取組	◆ 地域ケアプラザやみなみ市民活動・多文化共生ラウンジ等と共に、ボランティア活動の情報共有や情報発信を進めます。	
	◆ 「うらふね納涼祭」や「ボランタリーフェスタ」等の行事を通して施設と地域住民の交流を促進します。	

<p>〈日常生活自立支援〉【あんしんセンター】</p>	
<p>(5年後の将来像) 権利擁護事業（あんしんセンター）や成年後見制度についての理解が進み、高齢者や障害者が自分の力を生かしながら、地域で安心した生活を送ることができている。 市民後見人による地域での活動が進み、認知症や障害等があっても、地域で安心した</p>	
<p>具 体 的 取 組</p>	<p>◆ 権利擁護事業（あんしんセンター）の利用を促進するとともに、講座などを通じて、地域に向けて成年後見制度を普及啓発します。</p>
	<p>◆ 市民後見人への助言、活動支援を行います。</p>
	<p>◆ 地域に向けた市民後見人の普及啓発、情報提供を行います。</p>
<p>〈生活困窮者への支援〉</p>	
<p>(5年後の将来像) 生活困窮者が様々な支援を受ける体制が出来ており、自立へつながっている。</p>	
<p>具 体 的 取 組</p>	<p>◆ 区が実施する生活支援調整会議に参画し、生活福祉資金貸付事業や総合相談などを通して、生活困窮者を支援します。</p>
	<p>◆ 地域のネットワークを生かして支援が必要な人たちを把握し、制度につながるよう関係機関と調整を進めます。</p>
	<p>◆ 生活状況により、関係機関と連携し、食の確保などを通じた生活の支援に取り組みます。</p>
<p>〈共同募金活動〉</p>	
<p>(5年後の将来像) 募金の仕組みや必要性が多く世代に理解され、募金への協力者が増えている。</p>	
<p>具 体 的 取 組</p>	<p>◆ 区民や福祉団体などの意識啓発を進めるために、使い途を分かりやすく丁寧に説明するなど周知活動を強化し、寄付や募金活動が定着する地域づくりを進めます。</p>
	<p>◆ 学校関係などに支援を必要としている人の声や感謝の声を届け、思いやりの心を育みます。</p>
<p>〈区内福祉施設団体の活動支援〉【福祉施設団体分科会】</p>	
<p>(5年後の将来像) 施設利用者及び関係者と地域住民が集える場や交流の機会がある。</p>	
<p>具 体 的 取 組</p>	<p>◆ 分科会で地域の課題についての意見を出し合い、地域課題の解決を支援します。</p>
	<p>◆ 施設の行事を地域住民へ周知し、交流を図ります。</p>

重点 目標2	誰もが活躍できる機会と身近な参加の場をつくろう		重点
〈 地区社協支援 〉			
(5年後の将来像) 世代を問わず、地域住民が活躍できる場が身近な所に設けられている。			
具 体 的 取 組	◆	地域住民が地域活動に参加するきっかけづくりを地区社協と共に検討し、支援します。	
	◆	子育てや高齢者サロン等の開設や運営を支援し、地域の様々な資源を活用しながら、新たな人材を確保します。	
〈 ボランティアセンターによる活動支援 〉			
(5年後の将来像) サロンや支えあい活動など身近な場所で参加する機会や活躍するボランティアが増えている。 男性や若い世代、特技をもつ地域住民の多くが地域活動に参加している。			
具 体 的 取 組	◆	地域ケアプラザやみなみ市民活動・多文化共生ラウンジなどと連携し、ボランティア活動の場を提供していきます。	
	◆	地域福祉団体と協働して、新たな担い手を育成するため、アクティブシニアなどを対象にボランティア講座や活動紹介を行い、ボランティア活動への参加を促します。	○
	◆	地域ケアプラザやボランティアグループなどと連携し、趣味や生涯活動を通じたボランティア活動への参加を促していきます。	
	◆	男性ボランティアの活躍できる場をつくります。	
	◆	ボランティアグループの運営や活動上の課題について、ボランティア連絡会と協働して、解決に向けた支援に取組みます。	
〈 福祉教育啓発支援 〉			
(5年後の将来像) 学校での福祉教育をきっかけにした学生の福祉活動が地域で展開されている。 地域住民や企業が連携して福祉活動が展開されている。			
具 体 的 取 組	◆	「福祉教育」を通じて学校と地域の活動をつなぐ仕組みづくりに取り組みます。	
	◆	福祉教育の協力者として地域ケアプラザや地区社協等との連携を検討します。	
	◆	地域や企業を対象に、福祉に関する啓発活動を行います。	
〈 災害救援ボランティアネットワーク活動の支援 〉			
(5年後の将来像) 災害救援ボランティアネットワークの活動についての理解が広がっている。			
具 体 的 取 組	◆	「災害時に備え、日頃から考える」視点を広げるために災害救援ボランティアネットワークと共に講座等を企画します。	

〈 福祉保健活動拠点による支援 〉		
(5年後の将来像) 福祉保健活動拠点（トモニー）の認知度が向上し、地域の集いの場として活用されている。		
具 体 的 取 組	◆ 地域住民が地域活動に参加するきっかけづくりを進めます。	
	◆ 地域ケアプラザやみなみ市民活動・多文化共生ラウンジなど地域(福祉)活動支援機関と連携してボランティア活動の場を提供します。	
〈 共同募金活動 〉		
(5年後の将来像) 共同募金や街頭募金運動が広く知れ渡り、気軽に募金運動に参加できている。		
具 体 的 取 組	◆ 学校や企業に出張し、共同募金の説明会を開催するなどして共同募金への理解を深めます。	
	◆ より多くの団体が募金運動に関われるよう街頭募金運動への参加を広く呼びかけます。	
〈 区内福祉施設団体の活動支援 〉 【福祉施設団体分科会】		
(5年後の将来像) 施設が地域住民の気軽に立ち寄れる場となっている。		
具 体 的 取 組	◆ 施設の開放やボランティア活動などを通じて地域住民との交流を図ります。	
	◆ 施設の特性を生かした講座や学習会等を開催します。	
〈 トモニー助成金交付による福祉活動支援 〉		
(5年後の将来像) 世代を問わず、地域住民が活躍できる場や参加できる場ができている。		
組 具 体 的 取 組	◆ 地域で活躍するボランティアグループやサロン等に助成することで活動を支援します。	

重点 目標3	日常の情報共有を進め、災害時にも安心できる備えをしよう	重点
〈 地区社協支援 〉		
(5年後の将来像) 地域住民に必要な最新情報を地区社協から発信し、多くの地域住民に届けられる体制ができている。 多くの地域防災拠点訓練に障害者等要援護者が参加し、有事に生かせる情報収集が進められている。		
具 体 的 取 組	◆ 地区担当職員が編集会議に参加するなど、地区社協の広報紙づくりを支援します。	
	◆ 障害者等要援護者への理解が深まるように地区社協向けの研修を障害児者団体と共に実施します。	

〈 ボランティアセンターによる活動支援 〉		
(5年後の将来像) 広報紙だけでなく、イベントや講座など様々な形で情報が発信され、必要な情報が共有されている。 災害時に要援護者をみんなで支える仕組みができています。		
具体的取組	◆ 広報紙「社協みなみ」やボラセンだより「ボラぴ」等の活用及びイベント等を通じて区民に必要な情報の提供をするなど、情報共有を図ります。	
	◆ 大規模災害時に活動する災害救援ボランティアネットワークの体制強化を図るため、災害救援ボランティアネットワークの周知と会員増に取り組みます。	
	◆ 災害時にボランティアのネットワークが生かせるよう、市災害ボランティアネットワーク会議等に参加し、情報収集やネットワークの強化に取り組みます。	
	◆ 災害ボランティアセンターの機能強化を図るため、区役所や地域防災拠点との連携を進めます。	
	◆ 災害ボランティアセンターのシミュレーション訓練の実施を通じて、ボランティアの技術向上と区民の防災意識向上に取り組みます。	
〈 災害救援ボランティアネットワーク活動の支援 〉		
(5年後の将来像) 災害救援ボランティアネットワークの活動が周知されている。		
具体的取組	◆ 災害ボランティアセンターのシミュレーション訓練実施を支援します。	
	◆ 災害救援ボランティアネットワークのボランティアメンバーとともに、災害救援ボランティアネットワークの活動周知と会員の拡大に取り組みます。	○
〈 障がい児者支援 〉		
(5年後の将来像) 区内の多くの地域防災拠点訓練で障がい理解を深める取組を障がい児者団体等と実施している。 コミュニケーションボード、「配慮が必要な人」と「支援ができる人」とをつなぐ黄色と緑色のバンダナ等の取組が地域住民に浸透している。		
具体的取組	◆ 災害時に障がい児者が地域防災拠点で安心して避難所生活が送れるように避難スペースづくり体験や障がい理解講座等を行い、障がい児者団体や地域住民と情報を共有します。また、取組みが区内に広がるよう進めます。	
〈 福祉保健活動拠点による支援 〉		
(5年後の将来像) 定期的に防災に関する講座や学習会を行い、災害時に連携できる体制が整っている。		
具体的取組	◆ 防災に関する学習会等を通して周辺の施設や地域住民との交流を図ることで、防災意識を高めます。	
	◆ 高齢者や障害者、外国人等への理解を促進するための講座を検討します。また、周辺の学校と連携して、外国人等に対する「防災フェスタ」等のイベントを実施します。	
〈 区内福祉施設団体の活動支援 〉 【福祉施設団体分科会】		
(5年後の将来像) 災害時に施設と地域住民が相互に支えあえる関係ができています。		
具体的取組	◆ 分科会のネットワークを生かして各施設が役割分担し、災害時に連携できる体制を整えます。	
	◆ 福祉施設等と連携して、障害者等要援護者の理解が深められる取組みを実施します。	

重点 目標4	身近な活動を通して健康づくりを進めよう	重点
〈 地区社協支援 〉		
(5年後の将来像) 高齢者サロン等、地域の中で健康づくりの取組が進められている。		
取的 組 具 体	◆ 地域の取り組み(高齢者サロン等)に健康づくりを目的とした活動を取り込めるように支援します。	○
〈 ボランティアセンターによる活動支援 〉		
(5年後の将来像) ボランティアが健康を維持しながら活動を続けている。		
具 体 的 取 組	◆ 関係機関と連携して、ボランティア活動と健康づくりをつなぐ取り組みを実施します。	
	◆ 地域のサロンや食事会等で、健康づくりにつながる情報提供や取り組みを行っていきます。	

■福祉関係団体事務を担い、活動を支援します。

- ①日本赤十字社神奈川県支部横浜市地区南区地区委員会
- ②神奈川県共同募金会南区司会
- ③南保護司会
- ④南区更生保護女性会
- ⑤南区遺族会